



# モモの整枝・せん定

県北農林事務所伊達農業普及所  
JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会

## 1 基本樹形

2本の主枝と各主枝に2本ずつ亜主枝を配置する、開心自然形を基本とする（図1）。樹高は、作業性を考えて4m程度を目標とする。樹幅は、地力等にもよるが、7~8m程度を目安とする。横からも樹冠内部に光が差し込むよう、成木時に隣接樹との間隔を1m程度確保する。そのために、将来の樹冠拡大を見越した植栽や、計画的な縮・干ばつを実施する。

開心自然形は、受光態勢と作業性のバランスを考慮したものだが、樹齢が進むなかで、側枝の更新・育成や、背面枝の管理が適切でない場合は、骨格枝先端の下垂による樹勢の衰弱（先端の負け枝化）や、結果部位が外側に分散したり、上向き枝が拡大して高所作業が多くなるなどの問題が発生する。

管内には、低樹高・大玉生産の「大草流」や、早期多収の「大藤流」といった樹形も普及しているが、「日当たりの悪い場所の枝は枯れる」というモモの性質は同じである。樹形によって管理方法は異なるが、樹冠内部の日照条件を改善し、作業しやすい場所に良い結果枝を育成する、という基本原則は変わらない。

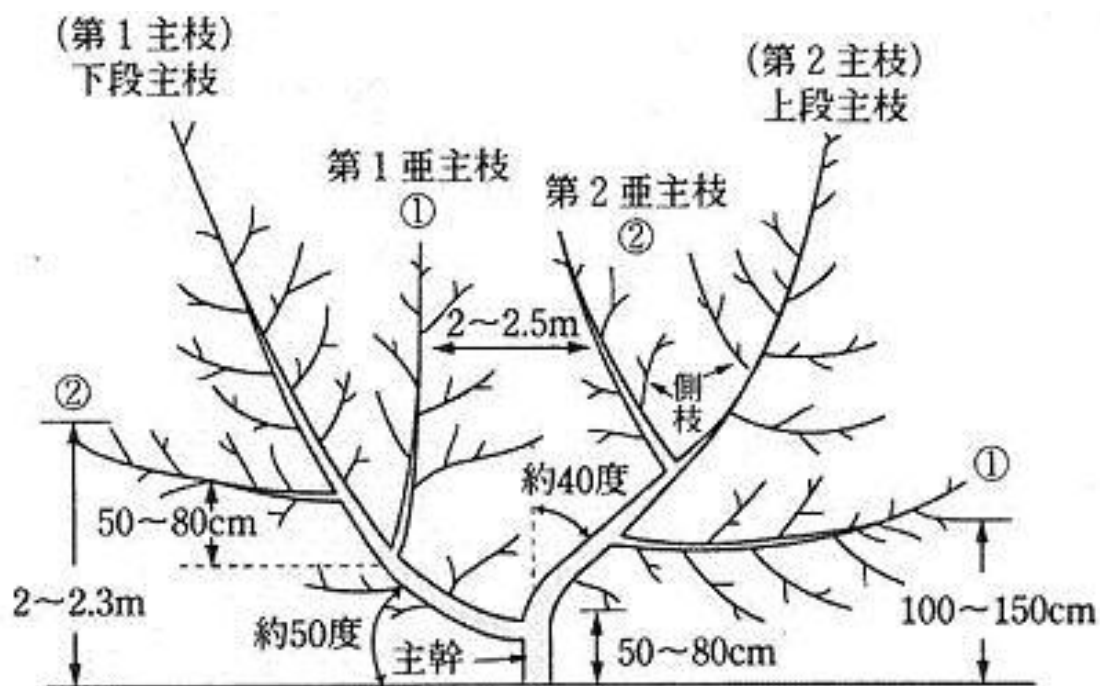


図1 開心自然形

※ 樹高を4m以内におさえ、6尺脚立で生育期間の大半の作業が行えるようにする

## 2 整枝・せん定の基本的な考え方

### (1) 樹冠内部の日照を改善する

上枝や背面枝を整理して樹冠内部の日照を確保し、作業しやすい高さの着果割合を増やす。

### (2) 主枝や亜主枝の勢力バランスを保つ

主枝が負け枝にならないように、亜主枝は主枝の赤道部～やや腹側から発生した枝を使用し、背面側の枝は利用しない。

骨格枝の先端が衰弱したり、下垂しないように、主枝や亜主枝先端の延長枝には着果させないように管理する。先端が下垂した場合は、下垂部位直下の上向き枝まで切り戻す。

### (3) 側枝を適切に配置する。

側枝は骨格枝上にバランス良く配置するとともに、それぞれの側枝は、その長さに対して幅をコンパクトに維持する(図2)。また、結果部位の樹冠外部への分散を防ぐとともに、若返りを図るため、大型側枝や古い側枝は、切り戻しや間引きにより早めに更新する。

### (4) 良い結果枝を毎年確保する

結果枝はその長さによって5種類に分類される(図3)。「あかつき」では、品質が安定する短果枝～中果枝を中心に利用するが、側枝の更新のため、側枝基部には長果枝を適宜配置する(発生させる)必要がある。



図2 側枝配置のイメージ

※ 側枝先端を結んだ線がモモの葉を形作る

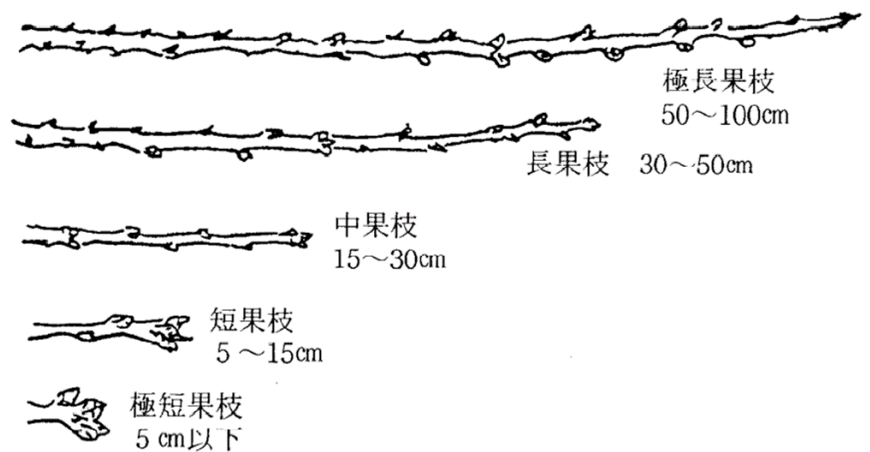


図3 結果枝の種類

※ 側枝内の結果枝は短果枝～中果枝が中心になるよう心がけ、極短果枝が増える前に側枝を更新する

(4) 樹勢によるせん定の違い (図4)

ア 樹勢が強い場合

間引きせん定を主体とし、短果枝をなるべく多く残す。

イ 樹勢が中庸な場合

間引きせん定と切り戻しせん定を適宜実施し、充実した中～短果枝を残す。

ウ 樹勢が弱い場合

切り戻しせん定を主体とし、中長果枝の発生を促す。特に下垂して弱った側枝や老化した側枝は生産性が低いため、更新の意味でも、より基部側で切り戻す。

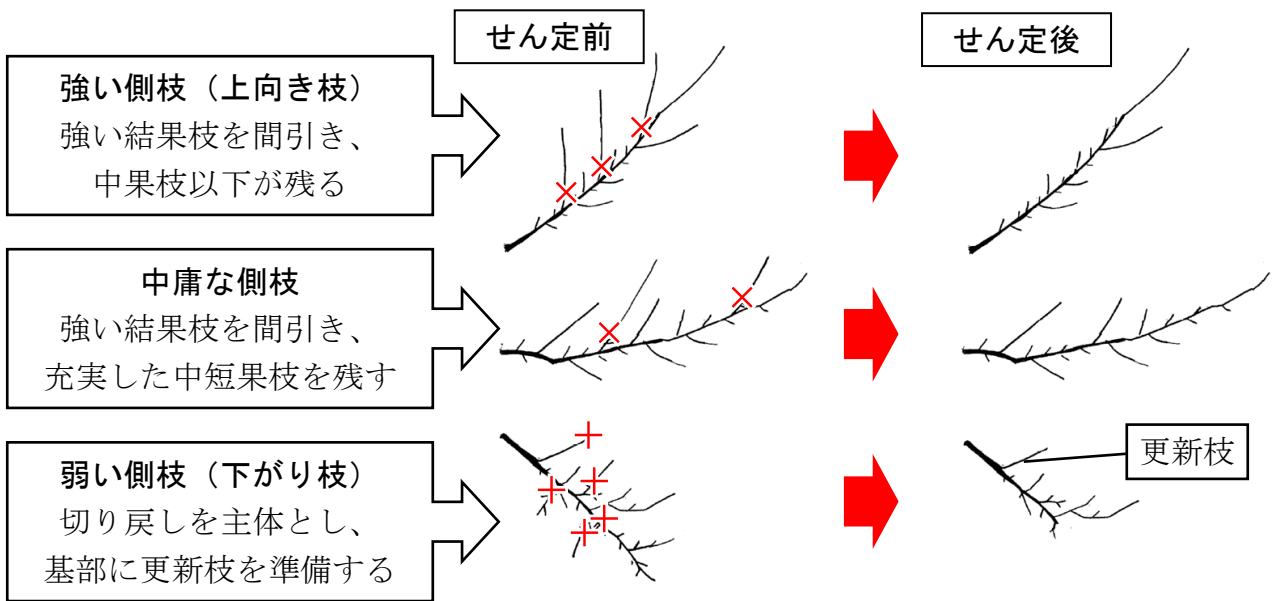


図4 側枝の強さとせん定方法 (× : 切る位置)

(5) 骨格枝の樹勢低下防止

ア 骨格枝には、基部から先端まで一定の間隔で背面枝を配置し、先端に向かう樹液の流動を促し、衰弱や日焼けを防ぐ。ただし、背面枝は大型化しやすいため、特に基部側の背面枝は、夏季せん定や秋季せん定により、年間を通じて小型に維持する(図6)。

イ 樹勢が低下しないよう、側枝には、主枝・亜主枝の赤道部より上(斜め上)から発生した枝を、一定割合使用する。

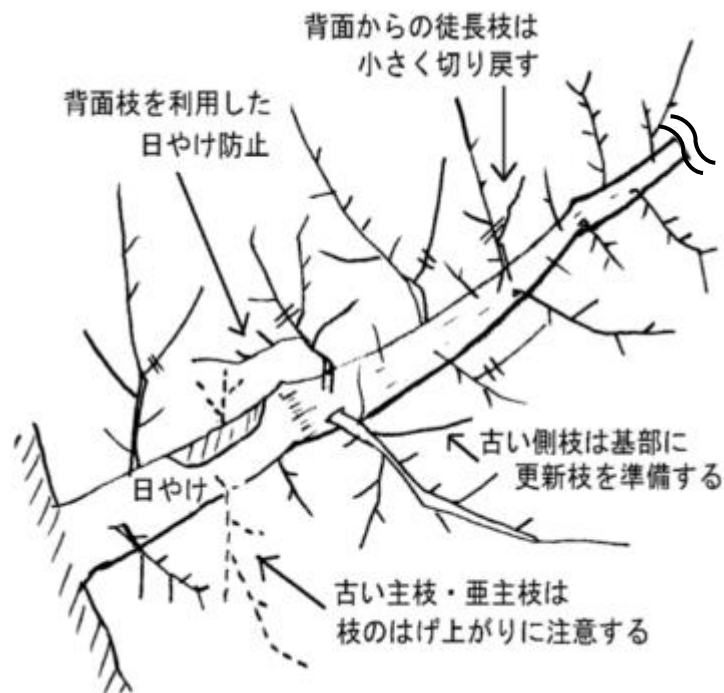


図5 骨格枝の樹勢維持を考慮した枝管理のポイント

(6) 極短果枝の整理

摘らいや摘果の省力化のため、側枝下側の極短果枝（5 cm 以下）はせん除してよい。

(7) 品種別の優良な結果枝の目安

品種	長さ (cm)	備考
はつひめ、日川白鳳、 暁星、あかつき など	20~25	・ 太くて赤味があり、花芽が充実した枝 ・ せん定時はやや立ち気味で、着果後は果実の重みで水平になる枝。
川中島白桃 など	10~15	・ せん定時は角度が水平に近い枝

せん定作業中の事故に注意しましょう

脚立使用時は・・・

- ◎ 天板に乗らない！
- ◎ 切除時に枝をつかんで引っ張らない。
- ◎ 開脚防止チェーンを必ずかける！
- ◎ 上り下りの際はハサミなどを持たず、脚立をつかむ！